

～小中一貫教育のさらなる発展をめざして～

はじめに

今年度、河合小中学校が 5・4 制の「河合型小中一貫教育」を始めて 10 年目の節目の年を迎えました。小野市の教育行政顧問である東北大学の川島隆太教授が毎年 5 年生に講演を行ってくださいますが、脳科学の視点からも 5 年生から 7 年生の成長に焦点をあてたこの 5・4 制の取組は教育的価値の高いものであることは間違いありません。

小中学校が共通して掲げる学校目標「他者と共創し主体的に学ぶ児童生徒の育成」は、教職員と児童生徒だけでなく、保護者や地域とも連携しながら目指すべき目標だと考えております。児童生徒の主体性や他者とのつながりを大切にしたい、9 年間を見通した教育を共に創っていきたいと思います。

今後とも、保護者の皆様や地域の皆様の温かいご支援やご協力、学校教育への積極的なご参画をお願いし、本年度の取組を紹介します。

1 授業づくり

本校では、7 年前から「未来を切り拓く協働的で探究的な学びの創造～教師の思いを起点とした授業づくりを通して～」を研究主題として小中合同で授業研究を進めてきました。その中で、本年度は本校が東播磨・北播磨地区中学校道徳科研究発表会の開催校になっており、また、県の道徳教育実践研究事業の拠点校に指定された経緯もあり、今までの授業づくりを礎としながらも、道徳科の授業に特化した研究主題で、授業づくりを行うことになりました。その研究主題とは「自己を見つめ、他者と共に未来を創る児童生徒の育成～児童生徒の実態と教師の思いを起点とした授業づくりを通して～」です。研究の進め方としては前年度までと同じく、まずは小中全教師が集まり、この研究の意義や目指すものについて確認しました。そしてより実践を深めるため、原則小中全教師が道徳科で授業研究を行うこととしました。

5 年生では公正、公平を主題とした『光輝の告白』という教材で、研究授業を行いました。主人公の光輝は、みんなの前で楽しそうに踊っていましたが、実は嫌々やっていたことを「ぼく」に告げました。児童は「ぼく」が行動を起こしてこの状況を変えると決心する気持ちに共感し、このようないじめがいじめにつながることも想像しながら最善の手立てをみんなで考えました。正しいことが、だれに対しても、いつでもどこでも、公平に行われることが大切なこと、そして勇気を持って自分が正しいと思った行動をとった時、すがすがしい正義の実現がいじめのないよい集団や社会の形成につながることに気付かせることをねらいとして授業が行われました。

9 年生では遵法精神を主題とした『元さんと二通の手紙』という教材で授業研究を行いました。授業者は「良いことをしているのであれば少しくらい決まりを守らなくてもよい」という考えがクラスの中にあることを見取り、なぜ法や決まりがあるのかということを考えさせたいという思いで授業を組み立てました。法や決まりは「冷たく、ただ守らなくてはならないもの」ではなく、「人々の幸福を守るための温かく優しいもの」であり、みんながその大切さや意義を理解して遵守することで秩序と規律のある安心安全でよりよい社会が実現することになるということへの気付きを目指して授業が行われました。

今年度の授業づくりの中で、これまで以上に意識して取り組んだことは、児童生徒の実態の把握と授業のねらいや道徳的価値への教師の思いの精練、そしてその価値へと迫るための中心発問の吟味です。何度指導案の検討を重ねても、満足いくものにならないことも多いですが、回数を重ねただけ磨かれていくものと感じています。今年度の取組を、次年度以降の授業づくりにも反映させていきたいと思っています。

